

2022

5

May
No. 351

広報

みしま

福島県
大沼郡
三島町

三島町は、福島県の西部を流れる只見川沿いの小さな町です。優良な「会津桐」の産地として知られるほか、小正月の行事「サイノカミ」や、野山の材料で作る「編み組細工」などの伝統が受け継がれ、「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。

Mishima Town Public Relations



三島小学校入学式 ～ぴかぴかの新1年生～

4月6日に三島小学校入学式が行われ、9名の新1年生がぴかぴかの新しいランドセルを背負って三島小学校児童の仲間入りをしました。式中には、緊張の表情を見せながらも、初めての学校生活にわくわくした様子でした。

主な内容

入所・入学式特集	2
まちの話題	3
町民課事業紹介	4～5
地域包括支援センター事業紹介	6
町民記者通信	7
など	

連携して地域の見守りを強化

町と生活協同組合コープあいづとの地域見守りの取組みに関する協定

4月7日に生活協同組合コープあいづとの地域見守りの取組みに関する協定式が行われました。

この協定では、コープあいづの宅配業務や移動販売業務機能を活用し、高齢者の1人暮らしや夫婦のみの世帯など、地域社会で支援を要すると思われる方々に、いつもと違う様子や異変、緊急事態が発生した場合において、町や関係機関への連絡・通報などの情報連携体制を定め、地域の見守り活動を強化します。



▲ 協定を交わした生活協同組合コープあいづ理事長吉川毅一氏(左)と矢澤町長(右)

防火・防災の知識を身近に

幼年・少年消防クラブ結団式

4月7日に三島小学校で地震が起きた後の火災を想定した避難訓練が行われました。避難訓練後には、少年消防クラブの結団式が行われ、青柳三島出張所長より手帳とバッジが手渡されました。4月21日には、三島保育所で幼年消防クラブの結団式が行われ、今後、子どもたちは防火・防災の啓蒙活動に尽力します。



▲ 三島少年消防クラブの皆さん

しっかり守ろう交通ルール

三島小学校交通安全教室

4月8日に三島小交通安全教室が行われました。森駐在所長より交通ルールについて指導してもらい、実際の道路で1・2年生は徒歩で信号機などの渡り方を、3～6年生は自転車に乗る時のルールについて実際に体験しながら学びました。日頃から交通ルールをきちんと守り、交通事故に遭わないよう真剣に取り組んでいました。



▲ しっかりと手をあげて横断歩道を歩く1・2年生

あなたのお家は大丈夫ですか？

春の防火・防犯診断

4月8日に春の防火・防犯診断が高齢者世帯や1人暮らし世帯を対象に実施されました。会津坂下消防署三島出張所、会津坂下警察三島駐在所、消防団、民生児童委員の皆さんのご協力のもと、暖房機器や屋外のホームタンクの点検などを行い、夜の玄関等の施錠について注意を促しました。



▲ 防火・防犯診断の様子

入所・ご入学おめでとうございます！

4月4日に三島保育所で入所式が、4月6日には三島小・中学校で入学式がそれぞれ執り行われました。

三島保育所



りすぐみ(0・1・2歳児) 5名



ぱんだぐみ(年中児) 11名
うさぎぐみ(3歳児) 1名



きりんぐみ(年長児) 7名

三島小学校



三島小学校1年生 9名



猪俣校長から教科書を受け取る代表の五十嵐健翔さん(川井)



入学式
お兄さんお姉さんに囲まれて
少し緊張している様子

三島中学校



入学式
夢と希望を胸に入学式に望む
新入生の皆さん



新入生誓いのことばを述べた
大竹薫子さん(滝谷)



三島中学校1年生 7名

三島町子育て世代包括支援センター

～ 妊娠初期から子育て期まで

切れ目なくサポートいたします～

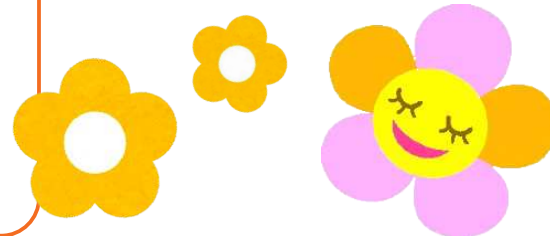


三島町では、健やかに安心して妊娠期を過ごし出産・子育てができるよう、切れ目ない支援をしていくための相談窓口として、三島町役場町民課内に「三島町子育て世代包括支援センター」を開設しています。妊娠・出産・子育てに関する相談について、どんな事でもお気軽にご相談ください。保健師や管理栄養士が相談に応じます。

例えば、こんな悩みや不安はありませんか？

- ・初めての妊娠で不安しかない
- ・育児に自信が持てない
- ・子育てがしんどい。誰かに話を聞いてもらいたい
- ・子どもの発達が心配、発育が気になる
- ・学校や保育所でのお友達との関わりが知りたい
- ・最近子どもがなんとなく元気がないように感じる

1人で悩まずに
相談してください。



必要に応じて保育所や学校・医療機関・福祉機関と連携しながら切れ目ない支援を行います。些細なことでも、お気軽にご相談ください。

おじいちゃん、おばあちゃん
の相談もお受けします。



《相談窓口》

三島町役場町民課内

《受付時間》

- 月曜日～金曜日（祝祭日・年末年始を除く）
- 午前8時30分～午後5時15分
（時間外での相談をご希望の方はご相談ください）

●電話番号

町民課保健福祉係 ☎ 0241-48-5565

※窓口や電話相談のほか、家庭訪問等での相談も行います。



産後ケア事業のご案内

三島町では福島県助産師会に委託して、産後ケア事業として利用負担金の補助を行っています。助産師がいる施設で心と体のケアを受けながら、安心して子育てができるようサポートします。

授乳がうまく
いかない

なんで泣いてるの？
しんどい

ペースが
つかめない

ちょっと
休みたい

手伝って
ほしい

安心して
ゆっくりしながら
お世話の仕方を
知りたい



＊ケアの内容

お母さんの心配事や
お子さんの体調に合わ
せて、
○授乳についての相談
○乳房ケア
○母体の体調管理
○育児相談（赤ちゃん
のお世話の仕方や様
子の見方）

など



＊利用方法

利用開始まで数日要しま
すので、事前に町民課保健
福祉係へご連絡ください。

＊対象者

三島町に住所がある産後1年未満の母子

＊利用可能施設

福島県助産師会に加入する産後ケア
事業実施可能な助産所等の施設

＊利用料金

宿泊ケア（1泊2日）：3,000円

1日追加：3,000円

日帰りケア：1,500円

※多胎の方のご利用については料金が異なります。

＊お問い合わせ

役場町民課保健福祉係
☎ 0241-48-5565

大山祇神社と温泉神社で春祭り（4月12日）

橋本 光五郎（早戸）

早戸地区の大山祇神社と温泉神社で例年通り宮司を迎えて春祭りが行われました。集落内にはまだ雪が残っているのに当日は例年以上の暖かさで、大山祇神社の階段を登るだけでも汗ばむような陽気。日当たりの良い階段の脇にはこの暖かさにつられてカタクリの花も咲き、雪解けの遅い早戸でも新しいしめ縄を張った鳥居周辺は春祭りらしい景色になってきていました。

温泉神社においても新しいしめ縄を張り、1年間何事もなく温泉を多くの方々に利用して頂けるように、早戸・滝原の関係者出席のもと春祭りを執り行いました。



住みよい地区づくりを目指した地区総会（3月27日）

本名 与四郎（西方）

西方ふるさとセンターにおいて、「西方地区総会」が行われました。はじめに、青木喜章区長が本年度計画された諸活動が地区住民の理解と協力の下、順調に執り行われたことに対して感謝の意を述べました。また、新型コロナウイルスの拡散のため、不安な状況が日本社会を含む世界全体を取り囲んでいるため、西方地区民がコロナウイルスに罹らないよう手洗い、うがい、マスクの着用を呼びかけました。今後も「楽しく安心して住める地区」を目指す内容についての挨拶もありました。

本題である協議事項は事業報告（計画）、一般・特別会計収支決算（予算案）、など多岐にわたって慎重審議されました。それぞれの協議事項について、地区住民から建設的で忌憚のない要望や質問が多数出され、充実した実りのある地区総会となりました。



地区民によるカタクリ整備作業と冬囲い外し（4月16日）

本名 与四郎（西方）

大林公園ふるさと山のカタクリ整備作業が行われました。作業当日は朝から小雨交じりの天候にもかかわらず、30名に近い地区民が集まりました。カタクリを傷つけないように両サイドを細いロープで歩道を分かりやすくしたり、進行方向を示す看板を立てたりしました。

今年は、例年になく積雪量が多く、朝夕の寒い日も続き、大林公園のいたるところに残雪がありました。もうすでに桜とカタクリの花が咲いている箇所もありましたが、1週間以上遅くなっている様子でした。

依然としてコロナ感染者増加傾向もあり、「カタクリ・さくらまつり」という名目でのイベントは開催されませんが、毎年、カタクリとさくらのコラボレーションを楽しみにしている来客者は、町からの情報を得たりしながら、整備作業中にも訪れている姿も見られました。

また、地区委員の方々は、カタクリ整備作業が終了した後に、ふるさとセンターの冬囲い撤去作業に取り組みました。冬囲いの板を傷つけないように、丁寧に取り外したり、接続パイプ管を固定したりする作業が手際よく行われました。



認知症は早期発見・早期対応が大切です！

認知症初期集中支援チームにご相談ください！



認知症初期集中支援チームとは・・・

医療・福祉・介護などの専門職で構成されたチームです。

三島町では、県立宮下病院・奥会津在宅医療センター・地域包括支援センターに所属する医師や看護師、保健師、社会福祉士がチーム員として活動しています。

認知症かな？困ったときは・・・

対象となる方は・・・

三島町に住む40歳以上の方で認知症や認知症が疑われ、①～③に該当する方。

- ①認知症の診断を受けていない方や治療を中断している方
- ②適切な医療・介護サービスを受けていない方
- ③医療・介護サービスを受けているが、対応に困っている方

相談から支援の流れ

まずは「地域包括支援センター」にご相談ください。



チーム員がご自宅を訪問して生活状況を確認します。



ご本人と家族の困りごとに応じて医療や介護サービスの調整を行います。

- 相談対応・助言
- 認知症の症状に沿った対応など状況に応じてアドバイスします。
- 必要な医療・介護サービスの検討
- 専門医療機関への受診の調整

認知症の方とご家族の今後の生活を支えるための関係機関へつなぎます。

- かかりつけ医・専門医
- 介護サービス事業所
- 地域包括支援センター
- ケアマネージャー
- 保健師



認知症は誰もがかかる可能性のある身近な病気です。



認知症とは、いろいろな原因で脳の細胞が損傷を受けたり、働きが悪くなることで認知機能が低下し、様々な生活のしづらさが現れる状態をさします。

認知症に関する相談、認知症初期集中支援チームに関する相談は

◆三島町地域包括支援センター◆

場所：三島町役場2階

電話：48-5045

三島町の健康課題

令和2～3年度の健診結果状況から三島町の健康状態を同規模市町村（※）と比較してみました。

※人口5千人未満の全国市町村

【良くなったところ】

- 😊 糖尿病などの有病状況（国保被保険者全体）は低い。
- 😊 虚血性心疾患や脳血管疾患などの新規患者数は減少し、障害を持つ人の増加が抑えられている。

【悪くなったところ】

- ☹️ メタボリックシンドロームの該当者割合が高い。
※ウエスト周囲径男性 85cm以上、女性 90cm以上かつ脂質異常症・高血圧・高血糖のうち2つが当てはまる。
※メタボリックシンドローム該当者は動脈硬化が進行しやすい体になっている。
- ☹️ 慢性腎臓病や虚血性心疾患（狭心症・心筋梗塞）による医療費の割合が高い。
※慢性腎臓病や虚血性心疾患などは生活習慣病重症化疾病ともいわれる。
※糖尿病の悪化により発症する“糖尿病性腎症”の増加も懸念される。

各地区の訪問指導で皆さまに教えていただいた習慣から、悪くなった原因を考えてみましょう。



※菓子パン、乳酸菌飲料、スポーツドリンクを習慣的に摂っている。

⇒糖質を多く摂ることで内臓脂肪が蓄積される

※野菜が少ない（冬期間は緑黄色野菜をほとんど食べない）

⇒ビタミン類の不足により血管が修復できない（細胞の老化）

※緑黄色野菜に多く含まれる「ビタミンA」「ビタミンC」「ビタミンE」が大事！

自分の体は自分で守る！

食をはじめとする生活習慣を整え、年に1度は健（検）診を受けて自分の体を中から見直すことで生活習慣病の重症化を防ぐことができます。

町民課では、健診結果をもとに訪問し保健指導を行っています。

気になる方は保健師・栄養士にいつでもお声かけください。



vol.67

健康で元気な毎日！

町民課保健福祉係 ☎48-5565



地域おこし協力隊 活動誌

2年目は・・・

山本 敬晴

三島町に移住して早一年が経ち、今年度より協力隊二年目を迎えています山本です。

昨年度まで3名で活動していた三島町地域おこし協力隊ですが、三月で心強い先輩2名が卒業され、現在は私1名での活動となります。そして、この活動誌も新しい協力隊が着任される当面の間は、幸か不幸か私の記事が毎月掲載されることとなります。心の底から新たな協力隊の着任を願いつつ、日々のネタ作りに励みたいと思います。（笑）

さて、移住してからこの一年を振り返ると、活動内容の再生可能エネルギーや森林資源の利活用に係わる業務についての経験はもちろんのこと、プライベートでも初めて経験すること



もたくさんありました。夏は、会津自然エネルギー機構主催の山学校に参加してチェンソーを使った伐木や、秋には宮下地区での蕎麦刈りなど、冬は豪雪地帯ならではの除雪と初めてスノーダンプの使用、また、かんじき作りも体験しました。他にも一年とおして、様々なイベントにも参加し、充実した一年を過ごせました。ただ、一つ残念なことに、生まれて初めての交通事故に遭いケガも負ってしまいました。趣味である山歩きや岩登りでは物足りない1年だったので、2年目こそは奥会津の山々を楽しみたいという裏目標も掲げて、協力隊の活動に励みます。

工芸館だより⑫ ～ものづくりの伝承～

資料を公開いたします。三島町編み組細工技術継承記録

工人の館の図書コーナーに1冊の資料を追加します。これは、元生活工芸伝承生の井口恵さんが在籍中の4年間に町内の皆さまから聞き取りを行ったり、直接教えていただいたことをまとめた29件の編み組細工に関する資料集です。主に山ブドウやヒロロ、マタタビ等の材料採取や制作の方法について写真を交えて掲載しています。基礎的な内容なので、編み組細工を始めて間もない方におすすめの1冊です。また、雨蓑や雪踏み俵に関する記事もありますので調べ学習にもご利用ください。手に取ってご一読いただければ幸いです。工人の館にてご覧できます。



採取	制作
 「クルミ採取例」	 「米研ぎ箆底編み」
山ブドウ、マタタビ（縁材を含む）、ヒロロ、モワダ、クルミ、ガマ、クゴ、トウモロコシ、ヤマスゲ、クズ、野カラムシなど	山ブドウ財布、マタタビ米研ぎ箆、ヒロロバッグ、木箆、かんじき、蓑、雪踏み俵、蓑織り、ガマ草履など

町民アカデミー講座のご案内
6月4日「手で彫る菓子皿」受講者募集中！詳しくは生活工芸館までお問い合わせ下さい。
問 三島町生活工芸館
☎(48) 5502

図書のご案内

町民センターゆめぼけっと

- 利用時間
月～金 午前9時～午後9時
土・日・祝 午前9時～午後5時
- お休み
年末年始

問 公民館 ☎(48) 5599

●今月のおすすめ



さざなみのよる 著：木皿泉

小国ナスミ、享年43。息をひきとった瞬間から、彼女の言葉と存在は湖の波紋のように家族や友人、知人へと広がっていく。命のまばゆいきらめきを描く感動と祝福の物語。2019年本屋大賞ノミネート作。

●図書の紹介



優しい人には優しい出来事がありますように。

著：もくもくちゃん



学校では教えてくれない大切なこと ①⑪⑫

著：旺文社



サピエンス全史 (上) (下)

著：ユヴァル・ノア・ハラリ

現在、町には三島町消防団があり消防活動等を担っています。当町において「消防団」に類する組織は明治以降、「消防組」や「警防団」がありました。

明治中期から昭和十四年（一九三九）三月までの消防組織は「消防組」でした。いつ結成されたのかを示す文書は見つかっていません。確認できた範囲で最も古いのは、明治三十四年（一九〇一）五月の消防組演習に関する西川村外二ヶ村組合（以下、組合村と表記、後の宮下村）の村長から各区長に宛てた案内文書です。同月十三日に原谷・三谷・西川・川西各村の消防組が宮下に集まり演習を実施するよう、大沼警察署より通知があったとする案内で、実施時には報鐘（ほうしやう）を打ち鳴らすようにと指示されています。

明治四十一年（一九〇八）に原谷・三谷・西川の各消防組がまとめられ西川消防組となり、人員は百五十名前後、宮下・桑原を第一部、川井・大登を第二部、松原・

滝谷を第三部、大谷・浅岐・間方を第四部と四部制にし、各大字に消火用ポンプと消防用具を備えたといえます。消防手は「正服正帽履物二至ルマデ一定シ訓練」とされ、統一した服装があったことがうかがえます。（組合村『郷土誌』川西（西方）消防組も第一部から第四部の四部制で（西方、大石田、名入、早戸か）、消防唧筒（ポンプ）四台、給水器五十個、梯子（はしご）十挺の備えがあったといえます。（西方村『郷土誌』）

『福島県の精華消防名譽かがみ』（大正十四年刊行）には西川消防組としてまとまった明治四十一年から大正年代にかけての組頭（くみかしら）の名前が記されており、当初は馬場幸作、大正二年から酒井一、四年から渡部禎二、八年から角田伊作の各氏となっています。なお、別資料に十五年には角田慶次氏が組頭であったことを示す文書もあります。西方消防組に関しては大正十三年に青木金三郎氏が組頭になったとの記事が確認できます。

昭和十四年、消防に加え、防空の役目も担わせた戦時色の濃い「警防団」が組織されました。当町には組合村・西方村の警防団設置について、福島県知事からの諮問への答申書や村会の議決が遺されており、定員が組合村で百四十五名、西方村では百名としていることや、団長等への手当金の額などが明らかになっています。組合村の役場日誌によると同年三月三十日に消防組の解散式が、四月一日に警防団の発団式が行われています。また現在と同様に一月初旬に出初式（でぞめ）が、春秋には検閲（けんえつ）が行われていることもわかります。警防団は警戒警報が発令されると、解除まで役場に団員を宿直させる場合があったようです。十八年九月八日午後一時には警防団非常召集があり、宮下村・西方村・西山村・柳津町の各団員が宮下国民学校校庭に集合、通常点検・講評・訓示後、午後七時に解散となっています。終戦の日である八月十五日には混乱を警戒してか、



（三島町史編さん室）

▲警防団訓練風景か（細堀貫一氏撮影）

環境研だより 第46回

交通アンケート調査結果のご報告



しぶしぶくん

三島町のみなさま、こんにちは。今回は昨年末にご協力いただいた「三島町における住民主体の送迎システムに関するアンケート調査」の結果についてご紹介いたします。

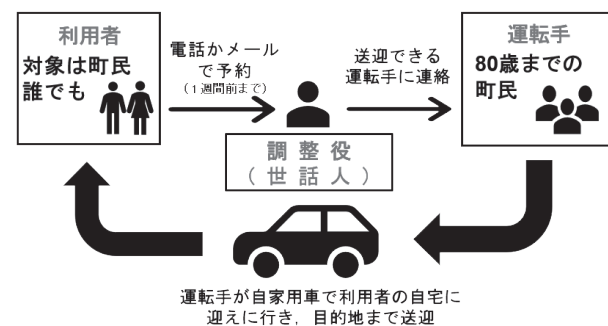
本調査は、移動手段の確保が課題となっている中山間地域における新たな交通手段を検討する研究の一環として、地域政策課の協力のもと日本大学理工学部交通環境研究室と国立環境研究所にて実施しました。



写真：調査結果報告に来町された日本大学伊東准教授（右）

三島町にお住まいの15歳以上の方を対象に、住民主体の送迎システムの導入可能性を検討する上で、送迎システムの利用意向や運転志望意識などについてお伺いしました。調査は2021年12月7日から12月20日にかけて実施し、配布数1,355部に対して有効回収数は630部（有効回収率46.5%）でした。

本調査で想定した住民主体の送迎システムの仕組みは図の通りとなっています。



図：本調査で想定した住民主体の送迎システムの仕組み

また、送迎にかかる時間等も踏まえ、宮下、荒屋敷、桑原、大谷、浅岐、間方を「南部」、それ以外を「北部」として2つの地域に分けて分析を行っています。

まず、送迎システムの利用希望者につきまして、「利用したい」と回答した方は南部で14%（24人）、北部で21%（72人）となりました。「利用したくない」と回答された理由の大半は「特に移動手段に困っていないから」でした。また、利用希望者の観点からの運転手の上限年齢の平均値は71歳となりました。

次に、送迎システムの運転志望者につきまして、80歳未満で運転免許を保有している方を対象として尋ねたところ、「やっても良い」と回答した方は南部で17%（20人）、北部で12%（30人）となりました。「やりたくない」と回答された理由としては、「時間がない」「他人を自分の車に乗せたくない」などが見られました。

最後に、利用希望者と運転志望者を時間帯・曜日別に区分し、利用者と運転手のバランスがどのようになっているのかについてマッチング分析を行いました。まず、時間帯・曜日別に見ますと、休日は運転者数が上回っていましたが、平日は利用者数の方が多かった結果となりました。更に平日の場合は、特に午前中に利用者が集中していることもわかりました。次に南北別で比較しますと平日の北部の7時～13時において運転者数が不足していることが明らかになりました。

分析結果の概要は以上になります。地域交通は住民の皆さまの生活や、環境面からも今後ますます重要な課題になると思われます。私たちも調査研究の面から引き続きお手伝いができればと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

〈筆者〉常盤 達彦（ときわ たつひこ）

●国立環境研究所福島地域協働研究拠点
地域環境創生研究室 ☎0247（61）6572

町からお知らせ

ご寄附ありがとうございました（3月分）

ふるさと納税

佐久間 幸巳 様（埼玉県）
 白田 建一 様（神奈川県）
 猪熊 けい子 様（東京都）
 他5件
 計 2,066,000 円

5月分納税のご案内

【納期限 5月31日（火）】

- ▼ 国民健康保険税（第1期）
 ▼ 介護保険料（普通徴収）（第1期）
 忘れずに納付ください。
 ☎ 町民課 町民係 ☎（48）5555



はじめまして赤ちゃん

舟木 爽空 くん（桑原）
 （保護者 孝幸・和恵）



お悔み申し上げます

矢澤 隆司 様（67才・滝谷）
 栗城 カネコ 様（94才・西方）
 青木 孝子 様（81才・西方）
 鈴木 センヨ 様（81才・松原）

町の人口と世帯（4月1日現在）

人口	1,455	増減数	-11	出生	2
男	729		-3	死亡	4
女	726		-8	転入	12
世帯	712		-4	転出	22

※住民基本台帳による数値です。増減数は前月との比較、出生・死亡・転入・転出は前月1カ月間に届出のあった人数です。

社会福祉協議会より

間方いきいきクラブ

5月10日（火）
 午前10時から
 間方集会所

高清水・小山いきいきサロン

5月10日（火）
 午前10時から
 高清水集会所

サロンなごみ

5月11日（水）
 午前10時から
 西方ふるさとセンター

松原はつらつクラブ

5月13日（金）
 午前10時から
 松原集会所

ひまわりサロン

5月16日（月）
 午前10時から
 町民センター

大登サロン

5月17日（火）
 午後1時30分から
 大登生活改善センター

川井友愛サロン

5月18日（水）
 午前10時から
 川井集会所

滝谷和楽塾

5月19日（木）
 午前10時から
 滝谷集会所

サロンないり

5月23日（月）
 午前10時から
 名入集会所

浅岐あったかサロン

6月3日（金）
 午前10時から
 浅岐集会所

※新型コロナウイルスの感染状況により中止する場合もございますので、ご了承ください。

◆ 心配ごと相談 ◆

5月11日（水） 福寿草
 午前9時30分から午前11時30分まで

町社会福祉協議会へのご寄附
 （ご遺志によるもの）

栗城 康一 様（西方）
 青木 厚 様（西方）
 鈴木 一雄 様（松原）

☎ 社会福祉協議会 ☎（52）3344

ご寄附ありがとうございます

滝谷建設工業(株)が町に寄附



滝谷建設工業(株)から町へ多額の寄附金が贈呈されました。4月4日に田中智仁代表取締役と板橋康宏取締役が役場を訪れ、矢澤町長に手渡しました。

県立会津坂下高等学校同窓会が町に寄附



県立会津坂下高等学校と県立大沼高等学校の統合により県立会津坂下高等学校同窓会が解散することを受け、町へ寄附金が贈呈されました。4月12日に渡辺東助会長と役員の方々が役場を訪れ、矢澤町長に手渡しました。

人権擁護委員の日

人権擁護の日に併せて、下記の日程で人権相談を行います。困りごとや悩みごとなどお気軽にご相談ください。なお、相談は無料で、秘密は厳守します。また、新型コロナウイルス感染症の影響により、開催日等を変更する可能性がありますので、お越しになる際は、事前に最寄りの法務局までご確認ください。

- 日時 6月1日（水）
 午前9時30分から午前11時30分
 ●場所 三島町高齢者生活福祉センター

☎ 福島県地方方法務局若松支局 ☎ 0242（27）1498

委嘱状交付

交通教育専門員を栗城功さんに委嘱



交通教育専門員に栗城功さん（宮下）が委嘱されました。委嘱状の交付は4月1日に行われ、矢澤町長から委嘱状が手渡されました。平成25年から務めており4期目となります（任期3年）。児童・生徒の登下校時の見守りや街頭での交通安全指導などを行います。

三島町鳥獣被害対策実施隊員を14名に委嘱



▲ 矢澤町長より委嘱状を受け取る菅家藤一さん（左）と佐藤好一さん（右）

三島町鳥獣被害対策実施隊員に町内在住の14名の方が委嘱されました。委嘱状の交付は4月11日に行われ、矢澤町長から代表で菅家藤一さん（間方）と佐藤好一さん（荒屋敷）に委嘱状が手渡されました。任期は1年で、鳥獣被害防止のための鳥獣の捕獲等に関する活動に取り組みます。

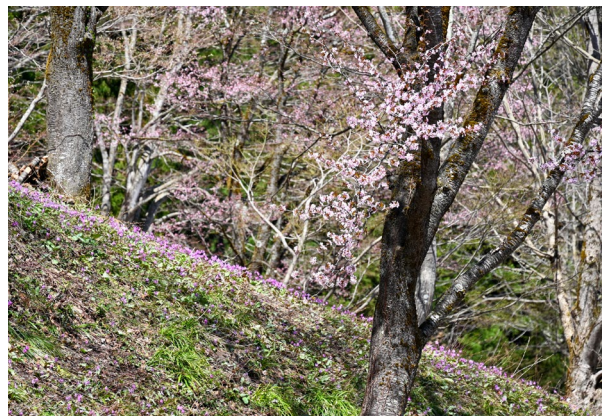
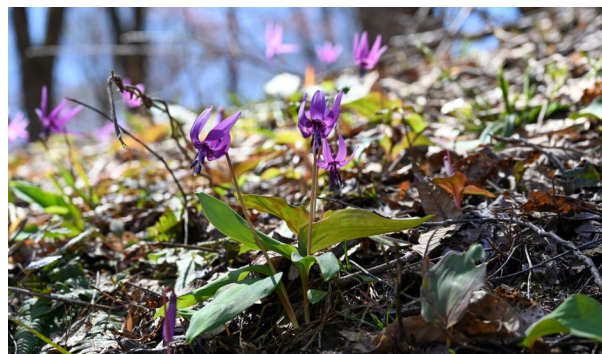
県立宮下病院より

愛ばんしょ外来からのお知らせ

三島町ケーブルテレビ 三島通信で健康教室を放送中です。5月のテーマは「耳鼻咽喉科について」です。ぜひご覧ください。



☎ 福島県立宮下病院 ☎（52）2321



大林ふるさとの山 カタクリと大山桜の饗宴

開 花：4月10日頃 見 頃：4月20日頃
撮影日：4月17日

町長日記

～時代の変遷と多層な集落の原点から未来へ～

No. 79

私の好きな四字熟語に「温故知新」と「不易流行」という言葉があります。正確な解釈ではないと思いますが、温故知新は、三島町の「過去」や「現在」といった流れの中で「今」を捉え、そして三島の未来を考えて行く必要があることだと思っています。つまりは、桐に桐を接合していく文化を大事にしていくという事を行政に携わる一人として、施策の立案をする基本として考えています。一方で、多層な歴史の蓄積が、現在の三島町を構成していると考ええる視点も複眼的思考として大切にしていかなければとも考えます。

不易流行は、時代の変化に対応することも重要であるが、時代を超えても変わらない「人間の精神の核」が重要であると考えます。源氏物語や土佐日記、方丈記や徒然草などの随筆を読むとき、人間の精神の構造は、現代においても光り輝くものであり、人間の歴史の精神のうねりも捉える視点が重要です。DXやAIを活用していくことも大切ですが、多層な文化の上に情報関連産業があることを基本に考えて行く必要があります。

人や集落の歴史、町や国の歴史は、決して単一ではなく、多様な歴史があり、それらが相互に干渉、交渉し成立しているものである。人間の文明の方向性にとって重要と考えます。その視点がなくなつたことで、コロナ禍社会の人權問題やロシアとウクライナの戦争が起こつたのだと思います。自然界も多様な動植物から構成されているからこそ変化に富んだ調和のある世界を形作っているものであり、文明や文化も同様であると思います。相互に理解しながら共生する社会を創る努力が必要であります。

三島町の振興計画は、他町村にはない地区振興計画を掲載している画期的な構成になっています。集落の多様性が、町の歴史を超えていくという理念がある事を町民の皆さまにもご理解いただいているものと考えています。4月に「地区要望事項」を中心に各区長と懇談しました。行政と地区との関係的大事にしながら、理念の実現のために奮闘していきます。

三島町長 矢澤 源成